北羽新報

2024年（令和６年）11月22日（金曜日）

（9）　第3種郵便物認可　新聞定価月ぎめ2,900円（本体2,686円、消費税214円）1部売り100円（税込み）

市民おもしろ塾

# 杉沢台遺跡想像図を寄贈

## 能代市教委「歴史教育に活用したい」

## 画家の梅田さん描く

能代市教育委員会に「杉沢台遺跡想像図」を寄贈したおもしろ塾の渡邉代表（左から２番目）ら

能代市の市民おもしろ塾（渡邉耕佑代表）は21日、市教育委員会に、同市磐で発掘された縄文時代の杉沢台遺跡の想像図（2枚一組）を寄贈した。市教委は「小学校の歴史教育などに活用したい」と話している。

杉沢台遺跡は国指定史跡で、縄文時代前から中期にかけての集落跡。市によると昭和55年に行われた発掘調査の結果、44棟の住居跡や109基のフラスコ状ピットが発見され、長辺が31㍍に及ぶ大型の竪穴住居跡は国内有数の規模とされる。平成15年の調査で、史跡の周辺にも集落が広がっていることが確認されている。

「杉沢台遺跡想像図」は、少年雑誌の挿絵、図鑑、歴史書、宗教関係の書物のほか、北羽新報掲載の「能代山本の先人たち」の挿絵も描いている画家の梅田紀代志さん（大分県湯布市）が制作した。おもしろ塾が平成29年以降に縄文遺跡をテーマとした講演会、講習会を開催していることを知った梅田さんが、自ら申し出て想像図を描き、おもしろ塾に贈っている。

想像図は2枚一組で、2枚ともアクリル画、サイズは110㌢×80㌢。1枚は、縄文人たちが協力して大型竪穴住居を建てようとしている様子で、背景には米代川、白神山地が描かれている。もう1枚は大型住居内で酒宴に興じる縄文人たちが描かれ、歌い踊る様子、天井につるされた鮭、人のそばで寝そべる犬などが生き生きと表現されている。制作に当たっては杉沢台遺跡の実測図、土偶などの出土品を資料にしており、県埋蔵文化財センターの専門家も評価するものだという。

寄贈に当たり渡邉代表が「おもしろ塾として活動してきた中で得られた絵画。市で保管し、活用してほしい」と要望すると、受け取った高橋誠也教育長は「縄文時代の人々の様子が生き生きと描かれている。縄文時代を分かりやすく伝える資料として保管し、活用したい」と感謝したほか、「個人的には、特に向能代小などで、子どもたちがふるさとを学ぶ中で活用してもらいたい」と話し、文化財として保管すると同時に、学校での学習、市民講座などの教材としても生かしたいという思いを伝えた。

渡邉代表は、市の歴史民俗資料館が早期に建設されることを期待し、「歴史資料として展示でき、説明できるようになればと思う。特に子どもたちの学習に結び付いてほしい」と語る。また「寒川遺跡などさまざまな遺跡がある。それらを総合的に活用できる体制になることを願いたい」と話していた。